

UPKI 共通仕様 利用の手引き
(インソース編)

初版 (Ver.1.0)

平成 20 年 3 月 31 日

1. 利用の手引き

(1) はじめに

本 UPKI 共通仕様(「キャンパス PKI CP/CPS ガイドライン インソース編」)は UPKI 上で大学間連携サービスを実現するための基盤となるキャンパス PKI を、将来の連携性確保や構築コスト削減などの観点も含めて、構築するための指針となることを目的としている。

本 UPKI 共通仕様(インソースモデル)を策定するにあたり、キャンパス PKI を先行して構築済みまたは構築を検討中の 2 大学(以下「先行大学」)に対してのヒアリングを実施した。ヒアリング項目数は全 45 項目である。これらの結果得られた先行大学に共通する項目、異なる項目を抽出・分析することで、インソースモデルのキャンパス PKI として共通に必要な事項について洗い出しを行い、その結果をガイドラインとしてまとめた。具体的には、各大学がインソースでキャンパス PKI を構築する際に必要となる「キャンパス PKI CP/CPS ガイドライン インソース編」を作成した。なお、ガイドラインは、原則、厳格な運用を前提として策定を行った。

(2) 本仕様の構成

本 UPKI 共通仕様は、「キャンパス PKI CP/CPS ガイドライン インソース編」、「キャンパス PKI CP/CPS テンプレート インソース編」から構成されている。これらの文書を雛型とすることで、各大学の容易なキャンパス PKI 構築に資することを想定している。

(3) 本仕様の利用法

本 UPKI 共通仕様は、各大学がキャンパス PKI を構築するにあたり必要とする CP/CPS の指針となるものである。利用方法として「キャンパス PKI CP/CPS テンプレート インソース編」に記述された内容を各大学にて編集し利用することを想定している。具体的なテンプレートの利用方法としては、認証局構築モデルを選択後、各テンプレート内の空欄を認証局の運用方針、予算、証明書利用用途に従い項目毎に取捨選択及び空欄を補充することとする。各大学において本「キャンパス PKI CP/CPS テンプレート インソース編」の改変は自由に行えるが、将来の大学間連携を見据えて、認証局のポリシーレベルを合わせる観点からも、各大学では最小限の改変に留めることを推奨する。

以上